

## 新年を迎えて

年頭に当たり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。昨年夏の花火大会での爆発事故や通学途上の交通事故など、京都府内で子どもたちの生命・身体を脅かす痛ましい事故が発生しました。あらためて、亡くなられた皆様に心から哀悼の意を表しますとともに、関係者の皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、九月には、台風十八号により数多くの方々が被災されましたが、その一方で、のべ二千名を超える府立高校生らがボランティア活動を行い、日頃からお世話になっている地域の災害復旧のために頑張る姿も見られました。

加えて、京都府教育委員会では、全国で初めて「京料理・会席料理」を無形文化財に指定し、その技能保持者として高橋英一さんを認定したほか、十二月には「和食」のユネスコ無形文化遺産への登録が決定するなど、明るい話題が聞かれた一年でもありました。

さて、今日、我が国の教育を取り巻く状況が著しく変化する中、教育委員会制度の在り方をはじめとして様々な教育改革が進められておりますが、京都府教育委員会におきましては「京都府教育振興プラン」の策定から三年が経過することから、これまでの取組の成果と課題をしっかりと検証し、教育行政のより一層の充実を目指す所存であります。

平成二十五年度においては、重点対策として三つの項目を掲げて積極的に取り組んでおります。

まず、「安心・安全な教育環境づくり」として、いじめは絶対に許されない行為であることをあらゆる教育活動を通じて教えることで人権意識を高めるとともに、PTAと連携した「いじめ・非行防止キャンペーン」など地域ぐるみによるいじめや暴力への対策のほか、警察や道路管理者などと連携した通学路の安全確保への取組や、災害に強い学校づくりを進めております。

新たに成立したいじめ防止対策推進法に基づく学校の体制整備はもろんであります。また、なによりも学校現場での早期発見・早期対応が重要であり、引き続き、一人一人が安心して通うことができる学校づくりに全力を挙げて取り組んでまいります。

次に、「中学校の学力充実対策」については、昨年の「全国学力・学習状況調査」などの結果において、家庭での学習時間などに課題が見られるものの、目標としていた中学生の学力向上に成果が出てまいりました。引き続き、子ども一人一人の学力状況を把握するとともに、小中学校が連携しながら学力の向上と自ら学ぶ力の育成に粘り強く取り組んで参りたいと考えております。

そして「府立高校の魅力づくり」については、一昨年策定いたしました「府立高校特色化推進プラン」に基づき様々な取組を進めていくところであります。そうした中、都市・乙訓地域においては、希望する高校を主体的に選択できるような高校入試制度の見直しを行いました。新しい入試に向けては、中学生が持っている力を十分に発揮し、希望する進路を実現できるように万全を期したいと考えております。

今後は、国際感覚を育成するとともに、世界を視野に行動できるグローバルリーダーの育成を積極的に進めるなど、多様な学習ニーズに答えられる府立高校のさらなる魅力アップに取り組んで参ります。

また、府民が持ちたい「スポーツごころ」を芽吹かせ、広め、深め、高めることをテーマとした「京都府スポーツ推進計画」(仮称)を今年の春に策定することとして、取り組む必要があると考えております。

今後とも、市町(組合)教育委員会をはじめ、関係機関とより一層緊密に連携し、府民の皆様の御期待に応えらるる教育を着実に推進し、子どもたちが健やかに成長し、個性や能力を最大限に伸ばすことができるよう、全力を尽くして参ります。

結びに当たりまして、皆様のますますの御健勝、御多幸をお祈り申し上げます。また、京都府の教育の更なる発展に向けまして、一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成二十六年

元旦

京都府教育委員会

委員長 畑 正高